

福島放技ニュース

期待と不安

齋藤康雄

今年も、もう師走になってしまった。毎年のことながら「今年は何をやったのか」と自問自答をするのが恒例のようになってきているが、たいしたこともしないでわっているという反省の繰り返しになってしまっている。

今年もいろいろなことがあったが、5月の福島県放射線技師会、6月の日本放射線技師会総会から始まった今年度の事業も、日常の業務に振り回され満足な対応ができなかったことに対し申し訳なく思う。

福島県放射線技師会でも、遅ればせながら10月からADセミナーが始まった。遅れたことに対する考えは前回のニュースで会長が述べているが、私は性急で分かりにくく一転二転していた制度の施行に問題があると思っている。いまでもADセミナーが最優先の取得認定になったことには賛成できないが、そのような制度がある以上現状では従わざるを得ない。本当に変わっていくのだろうかと言う期待と不安の中で、140余名という多くの会員が受講された熱意に敬意を表したい。この成果が絶対に将来の制度改革等に活かされなければ、会員は納得しないだろう。

今更であるが、講習会・認定試験・検定認定などに加えて、学会・研修会や勉強会が毎週のように開催されている。また、試験には必ずといって良いほど自己勉強が伴うものであり、その時間は計り知れない。そして、講習や試験は受益者負担の原則から各自が受講料・受験料を負担していて、それらは時間や金銭的な面からも少なからず職場や生活の負担になっていることは否めない。そうなってくると、都合の付く一部の会員しか参加しえないことになる。受講しやすい会員が一通り受講し終わると益々受講者が減り、地域間格差が大きくなると今後の進め方にも大きく影響してくるのだろう。向上心のある会員を置き去りにしてどんどん進むしかないとしたらどうなるのだろうか。どんどん変わっていく情勢の中では、今完璧だからと言って将来までも保障し担保する不変なものなどあり得ない。その変化に着いていくように変わらなければならないし、変わらなければ周りから変えられてしまうという現実もある。だからこそその生涯学習のはずである。その辺の事情は日本放射線技師会も十分把握しているはずであるので、今後の対応に期待したい。

今年度の日本放射線技師会総会は現執行部の体制の批判に終始し、事業の本質に迫るような議論はなされなかった。そして、スピード化という大義名分の元に性急的とも言える事業が展開されている。来年度は改選の年である。問題はあるものの現執行部体制下で進めていくことに同意するのか。新体制に将来を託すのか。平成18年6月2日（平成18年度日本放射線技師会総会 鈴鹿教育センター）が、その分かれ目である。

平成 17 年度

放射線技師学術大会が開催される

平成 17 年 11 月 13 日（日）に平成 17 年度福島県放射線技師学術大会が福島県立医科大学講堂において開催されました。研究発表に先立ち開会式が行われ、今、放射線技師に求められているものそして、技師がそのために行わなければならないこと。自己研鑽に努める大切さ。片倉会長挨拶のあと昨年度の学術奨励賞 「MDCT における高濃度造影剤の使用経験」 白河厚生総合病院の米沢由紀さんへ授与されました。

今年の一般演題は 18 題で、多岐にわたり日頃の研究成果を発表しました。質疑応答では、活発な討論がなされ熱意が感じられました。また、鈴木憲二大会長の司会でランチョンセミナーを行いました。「臨床医学概論 1 脳腫瘍を中心に」を木沢記念病院の井戸靖司医療技術部長が講演。「臨床医学概論 2 胸部疾患について」を JA 厚生連中濃病院の藤野明俊放射線科技師長がそれぞれ講演されました。

このセミナーの共催メーカーである第一製薬から前年度に引続き参加者に、「臨床医学概論」が贈呈され好評でした。その「臨床医学概論」を手には講演を公聴しました。

今大会の参加人数は実行委員を含めて会員 142 名。大会に参加された県技師会会員並びに大会運営に携わった実行委員に感謝いたします。前年から BASIC カード等の技師格カードを PC で読み込ませて、承認カウントを追加する作業も行なわれ今後は勉強会等にカードを忘れずに参加持参してください。

来年度も同時期に開催予定をしています。県技師会ホームページや技師会ニュース等でお知らせいたしますので多数の演題申し込みと参加者を期待しています。

(嶋田)



自治体病院福島県支部

放射線部会研修会が開催される

去る 11 月 18～19 日須賀川において公立岩瀬病院が担当で開催された。

当部会は全国自治体病院協議会福島県支部の下部組織の一つで、県内 24 施設の公的病院に勤務する放射線技師で構成されている。以前は臨床検査部門と放射線部門が合同で開催されていたが、分離開催となり今年で 5 年目となる。主な事業としては、年 1 回の研修会の開催で県内 4 方部が輪番で担当している。今回は 2 題の講演があった。

講演 1 「須賀川市の歴史と公立岩瀬病院」

講師 須賀川市立博物館長 横山大哲 先生

講演 2 「当院における 16 列マルチスライス CT の活用状況」

講師 公立岩瀬病院放射線科部長 景山和廣 先生

横山館長の講演内容は、公立岩瀬病院は須賀川住民の熱意によって、明治 5 年県内で最初の公立病院として設立され、一時は官の手から離れるなど、存続には苦難を乗り越えて現在に至っているとの話で、公立岩瀬の歴史の重みを感じさせる内容だった。景山先生は、第 I 世代のデルタスキャンから、第 5 世代のイマトロン CT までの輪切り画像開発の歴史と縦軸のマルチ画像収集を関連付けて講演され、マルチ画像では画像情報の増加にともない、MPR 画像の有用性が高くなると話された。

続いて行われた総会では役員改選があり、次の新役員が選任された。

部会長	本田 規	磐城共立
副部会長	片倉 俊彦	医大
〃	森口 節男	公立藤田
監 事	秦 昭吉	県立会津

(案)

県厚生連 放射線技師会開催される

福島県厚生連放射線技師会（会長 吉田豊氏 会員 45 名）は 10 月 22～23 日の 2 日間、第 34 回技師研修会を開催した。県内 7 施設から会員・関係者 44 名が相馬市岩の子「はやしや」に参集し会員研究発表前半 3 題（CT・一般撮影・マンモ）と特別講演として後藤光弘鹿島厚生病院長による「糖尿病について」を聴講した。夜は交流会が行われ会員相互が懇親を深め合った。2 日目は会員発表 5 題（MRI・CR 関連）と富士フィルムメディカル（株）の小川博之氏から CR 関連の技術講演「ノイズ抑制処理の被ばく低減への期待」を聴講し撮影線量をどの位まで減らせるかを討論しあった。続いて定期総会が行われ 11 時 30 分散会した。（北島）

平成17年度 第2回理事会 議事録

日時：平成17年11月13日（日）午前11：00より

場所：福島県立医科大学光が丘会館会議場

出席者 片倉会長、鈴木副会長、斎藤（康）副会長、斎藤（信）、吉田、本田、秦、今野、森口、富塚、八巻、長川、遊佐、新里、白川理事

欠席者 伊藤、待館、馬場（監事）、飯野理事

議題1、役務報告

（片倉会長）

① 合同委員会開催 <平成17年7月1日（金）福島医大>

② 第1回北関東地域会長会議

平成17年6月24日（金）りんどう湖ロイヤルホテル

平成18年度北関東地域学術大会

茨城県つくば市

③ 第2回北関東地域会長会議

平成17年8月27日（土）～28（日）川治温泉

④ 乳房撮影講習会（福島市医師会との共催）

<平成17年7月9日（土）～7月10日（日）福島医大>

⑤ 福島県医用デジタル通信技術研究会

平成17年8月20日（土）杉妻会館

⑥ ADセミナー（医学安全学）

平成17年10月16日・23日 福島医大

⑦ 放射線管理士、機器管理士 試験

平成17年10月16日（日）福島医大

⑧ 医用情報管理士試験

平成17年10月30日（日）福島医大

議題2、平成17年度放射線技師秋季学術大会（千葉幕張メッセ）会長会議について

○ 要望事項

（片倉会長）

JART 11月号第4回理事会議事録（抄）のなかの中澤理事より出版権に関する訴訟の件について、会員が不安に思っておりこの件に関する調査委員会の設置を要望したい。費用や経緯などを時系列で会員がわかるようにしたい。

Q. 一般会員からの質問メールに対して JART 側からの返答がこないのは何故なのか？

A. （社）福島県放射線技師会としては、調査委員会において会員の声（質問）が少しでも届けられるような仕組みを強く要望したい。

議題3、次年度表彰推薦について

（片倉会長）

○叙勲に1名を推薦、知事表彰受賞者を対象に検討を行う。

○知事表彰は1名を推薦、浜通り支部が該当します。役員歴と推薦条件を基に検討を行いたい。

議題4、その他

○ネットワーク委員会よりホームページ運用に関して、内容変更についての要望がありました。

（斎藤（康）副会長）

① ホームページ運用のための容量が不足しているため増やしたい。

② ドメインを取得し放射線技師会のホームページを運用する。

現在の契約内容とドメイン取得後の比較を行い評議した結果、会長をはじめ出席理事からの賛同を得ました。よって、OCNのホスティングへ切り変える（月額300円程度のプラス、ドメイン維持に3675円のプラス）ことで了承された。

詳細に関しましては、ホームページをご覧ください。

○平成18年度県総会の開催について

会津支部が担当（秦 理事）

平成18年5月20日（土）

会場：東山温泉 「東山グランドホテル」

以上を了承、議事を終了し閉会した。

平成17年11月13日

議長

鈴木憲二

議事録作成人 白川義廣

おめでとうございます

本年度秋の叙勲で、浜通り支部の佐藤知好さんが、長年の功績を評価され瑞宝双光章を受賞されました。会員一同、心よりお祝い申し上げます。

福島県放射線管理士部会入会申込について

福島県放射線管理士部会への入会申込は、下記のアドレスへお申し込み下さい。緊急被ばく医療研修会や原子力防災訓練等の開催のご案内をさせていただきます。今後の更新のことも考慮され、是非とも入会をしていただきますようご案内致します。

1. 申込先（事務局）

田村市立都路診療所 菅野修一まで E-mail:kanno-syuichi-01@city.tamura.lg.jp

2. 会費等 入会金・年会費ともにありません。

3. 様式等 特にありませんが、氏名・施設名・メールアドレス・管理士認定番号を必ず記載して送付して下さい。

（お詫び）

今回メールアドレスが変更になり、以前お申し込みができなかった方々に深くお詫びを申し上げます。

支部だより

《県南支部》

「保健福祉フェスティバル郡山」へ出展しました

この時期としては珍しく最高気温が25度を越えた10月2日の日曜日、郡山総合体育館において「保健福祉フェスティバル郡山 ファミリーフェスタ 2005」へ参加しました。今回は保健部門がメインとなるため、ブースが昨年より広くとられていました。「いまどきの健康診断」というテーマで、例年同様にX線写真やCT、MRI画像を展示し、マンモグラフィや骨塩定量検査等の説明を行いました。今回の目玉は、骨塩定量測定サービスです。メーカーの協力で装置をお借りしました。放射線を用いず、超音波による測定で骨粗鬆症の診断ができます。測定結果と共に説明も行いました。

その他、マンモグラフィや骨塩定量検査についてのアンケートを実施しました。来場者にとって検診の大切さを再確認するよい機会であったと思います。

特に今回は、スタッフジャンパーを着用したり、技師会ののぼりを立てたため、来場者からは放射線技師であることがわかりやすく気軽に相談して頂けたと思います。

(菅野)



《浜通り支部》

市民フォーラム・救急医療いわき 2005 開催

平成17年9月4日 市民フォーラム・救急医療いわき 2005 が開催された、例年様々なテーマでフォーラムが開かれるが、今年は『もし、いわきで大きな事故が発生したら?』とサブタイトルに付けられ、福島県放射線技師会浜通り支部も協賛した。厚生労働省救急医療専門官の特別講演のあといわき市の災害体制についてのシンポジウムが官民から関係者が集まり論議された。その後共立病院救急救命センター及び救急救命士を中心にトリアージのタグを張る実験と心肺蘇生法の実技体験を行った。一般市民が多く詰めかけた会場からの参加者も交え熱心に実技体験が行われた。(八巻)

《県北支部》

福島市マンモグラフィ乳がん検診読影会の報告

7月13日より毎週水曜日、福島市保健福祉センターで行われていた「平成17年度福島市マンモグラフィ検診読影会」が12月7日で22回目を数え、今年度は終了しました。これは福島市医師会より依頼を受け、市内の10検診施設で撮影されたフィルムを、撮影した技師及び読影会担当技師が画質やポジショニングなどについて検討し、各施設にフィードバックするという形で行われました。読影件数は多い時には300件を超える事もあり、毎回10名以上の技師の参加がありました。マンモ撮影を担当する技師のこうした日頃の努力により、画質やポジショニングなど施設間のフィルムの差が少なくなり、この読影会が撮影技術の向上に効果を上げている様でした。参加された皆様、大変にご苦労様でした。(池田)



訃報

平成17年10月14日 本県名誉会員である伊藤忠吉様が逝去されました(享年86歳) 謹んでお悔やみ申し上げます

訃報

平成17年11月11日 本会会員である浜通り支部の松村総合病院 医療技術部長 須藤友博様が逝去されました(享年58歳) 謹んでお悔やみ申し上げます。

編集後記

早いものでもう12月である、日本放射線技師会は混乱の年であったが振り返ってみると何も変わってはいない、組織を変えることは生半可では出来ない、総力を挙げてのパワーが必要と感じた。(八巻)